

■児童の学力の状況

- 学習に真剣に取り組む児童が多い。また、自分の考えを表現し、伝え合う活動に意欲的に取り組む児童も多い。
- 他者の考えと自分の考えを比較したり、根拠をもって予想や推論したりすることに苦手意識をもつ児童も多い。
- 児童一人一人の経験や習熟度、家庭環境による学習の習熟度の差が大きい。
- 教科書の文章をこだわって読むようになった。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 一斉指導が中心の授業展開にならないように、児童が主体となる授業づくりに努め、主体的・対話的で深い学びとなるような場面を工夫する必要がある。
- 児童に「なぜだろう」という問いを常にもたせるように、問いかけをもっと多くする。
- 学びのエリア内で、小中一貫教育を計画的に進める必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、学力を向上させる。そのために、「読み解く力」の育成を目指す。「読み解く力」の育成が全ての教科等における学力向上を支えると考え、「読み解く力」を養うための学習の充実を図る。
- 書くことを重視し、ノート指導の充実を図る。ノートへの記録を徹底し、さらに内容の充実を目指す。
- 学校と家庭との学びの連続性や家庭学習の習慣化を図るため、板橋区家庭学習の手引きを活用して、宿題指導の工夫・改善を行い、基礎学力の向上を図る。
- 授業の導入段階を大切にし、児童が意欲をもって取り組むことのできる授業の構築を目指す。
- 授業のはじめに、ねらいを明確につかませ、学習の見通しをもたせる。また、ねらいに対する振り返りの時間を必ず設け、授業で何を学んだのかを分かるようにする。⇒板橋区授業スタンダードの実践。
- 一人一台端末を効果的に活用することで、児童一人一人の学力に応じて、個別に最適化された学習内容を精選し、提供する。
- すべての児童に対して、公平で質の高い教育を実践するために、タブレット端末を活用し地域や家庭と連携を図って児童の学びを止めないようにしていく。⇒SDGs17の目標の④の実践。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 問題解決型・探究型の授業	視点2 協働学習の導入	視点3 指導と評価と支援の一体化
<p>☆なぜだろう、どうしてだろうと児童が自ら課題を見付け、課題解決のために試行錯誤する時間を確保する。</p> <p>☆意見や考えの交流から、よりよい考えを創り出す学び方を身に付ける。</p>	<p>○探求的な学習（総合的な学習の時間）の内容を3年から6年まで系統性をもって活動し、他者や社会と関わり、自分の疑問を伝えたり相手の話を聞いたりして交流を深める時間を設定する。</p>	<p>○自分の学びを振り返り、ねらいがどの程度達成できたのかを明らかにする。</p> <p>○自分の考えを文章で表現する時間を確保する。</p>

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
<p>○開始時刻を守る。</p> <p>○全体の前で話すときには、言葉遣いにも気を付け、「～です」「～ます」のように丁寧語で話す。</p> <p>○教室内の整理整頓を心がける。</p> <p>○発言したいときは黙って手を挙げる。</p>	<p>○一人一台端末やICT機器を効果的に活用し、重要な部分を拡大して提示する等し児童の考えの共有化を図る。</p> <p>○個別最適化された学習と主体的な学習時間を設ける。</p> <p>○ビオトープ、栽培活動を充実させることで、ESDの視点を踏まえた環境教育の推進を図る。</p>	<p>○読み解く力の育成を目指し、基礎的読解力の6つの分類を意識した教科書を用い、教科書で学ばせる研究授業を行う。</p> <p>○新学習指導要領に伴う外国語活動・英語、プログラミング教育に関する校内研修</p> <p>○GIGAスクール構想に関する校内研修</p> <p>○特別支援教育に関する研修</p>





